

# 審議会等の会議結果報告書

課所名

高齢者福祉課

会議名 令和5年度第1回諏訪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進委員会

開催日時 令和5年8月22日(火) 13時30分 ~ 14時45分

開催場所 諏訪市役所 201会議室

出席者 (出席者) (敬称略)  
推進委員会  
副委員長 宮澤裕子  
委員 正田行穂 藤森和良 矢崎敏江 飯田浩一 今村貴保 沖島太郎 神永記男  
一之瀬文枝 池上さゆり 清水俊英 橋本光市 宮坂正義  
事務局 健康福祉部長 守屋和則  
高齢者福祉課長 宮坂吉郎 介護保険係長 有賀恵  
高齢者福祉係長 小口隆 同係主査 両角あずさ 矢花之宏  
策定業務委託 株式会社ぎょうせい 上席主任研究員 山岸誉

資料 第1回諏訪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進委員会～次第～  
諏訪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進委員名簿【資料No.1】  
諏訪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の概要及び策定体系等について【資料No.2】  
高齢者等実態調査の結果概要【事前配布資料】

協議議題(内容)及び会議結果  
1 開会  
(宮坂課長)  
2 あいさつ  
(守屋部長)  
今年度第1回の委員会。昨年度の3月以来の顔合わせ。  
高齢者福祉計画は、市における高齢者福祉施策を推進するための大変重要な計画。  
これまで、いわゆる団塊の世代が75歳を超える2025年を目途に、住まい、医療、介護等の生活が、地域包括ケアシステムを一体的に進めている中で、「幸せ度の向上」を目指し、計画を策定してきた。  
本日、広域連合が実施をした実態調査等の内容も説明するが、コロナ禍において、住民の生活意識、生活の内容が変わり、社会参加、人と人、人と地域つながりが問題視されている。向こう3年間の目指すべき方向性を盛り込んだ計画にしたい。  
なお、今年度の3月に計画を完成させる予定であるが、できるだけ効果的、効率的に会議を進めるために、必要最低限の回数で、年間スケジュールを作った。それぞれの会議において感じたことについて、忌憚のないご意見をお願いしたい。  
3 報告 委員の交替について

#### 4 協議事項(宮澤副委員長進行)

##### (1)高齢者福祉計画・介護保険事業計画の概要及び策定体系について

(事務局:小口係長)

・資料No.2諏訪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の位置付け及び推進委員会の役割  
・資料No.3～4「諏訪市の高齢者を取り巻く現状」  
・諏訪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画  
・第8期介護保険事業計画(令和4年度)実施状況報告書」に基づき説明

##### (2)高齢者等実態調査の報告

(ぎょうせい:山岸上席主任研究員)

諏訪広域連合が長野県と協力して実施し、諏訪市分を抽出して集計。

認定を受けていない65歳以上の方(元気高齢者実態調査)、在宅で認定を受けている方(居宅要介護・要支援認定者等実態調査)の2種類を実施。

○元気高齢者実態調査の結果概要:幸福度との関係を中心に集計

・幸福度 8点が一番多い。前回と比べ8点が増え、5点が減っている。

平均点は前回7.14点で、今回は7.21点。

・主観的な健康状態「とてもよい」、「まあよい」が全体の8割。前回と比べると「とてもよい」が減り、「あまり良くない」が増えている。幸福度とのクロス集計では、「とてもよい」と回答した方は8点以上つける方が多く、「良くない」と回答した方は5点以下の回答が多い。健康状態と幸福度が、非常に相関関係があった。

・介護予防への取組「意識して取り組んでいる」と答えた方が24.1%と最も高いが、前回は43.4%で、割合が大幅に下がっている。「興味・関心は特にない」が高くなっている。

・地域とのつながりについて

近所付き合いの程度は、あいさつ、立ち話をする程度の方がいるが50.3%で、前回のほぼ同じような結果。近所付き合いが濃い人ほど、幸福度が高い傾向。

・友人・知人と会う頻度「月に何度かある」「週に何度かある」の割合が高いが、前回と比べると、「週に何度かある」が下がり、「月に何度かある」が増え、会う頻度が減っている状況が伺える。会う頻度が高いほど幸福度が高い状況が見られる。

・食事を共にする機会「毎日ある」が42.8%。前回の64.7%と比べると大幅に減っている。食事を共にする頻度が高い人ほど幸福度も高い。

・助け合いについて 隣近所に高齢、障害で困っているご家庭があった場合にできる支援。「災害の手助け」、「ごみ出し」、「買い物」の順に高くなっている。前回と比べると、「特にない・できない」が増え、それ以外のできる項目に関しては、大幅に減少している。

・外出・社会参加について 外出の頻度は、週5回以上が42.1%と最も高い。前回と比

べると、週2～4回の割合が減少し、週1回の割合が増加。  
外出を控えているかの問いには、「はい」が13.9%から34.5%に増加。理由としては、新型コロナウイルス感染症の感染予防が最も高い。

#### ○居宅要支援・要介護認定者等実態調査の結果

- ・幸福度 5点、8点、7点の順で割合が高くなっている。前回と比べると、5点の割合が減り、7点、8点の割合が増えている。平均は6.28ポイント。前回の6.08ポイントから上がっている。
- ・近所付き合いの程度 「あいさつ、立ち話をする程度の人がいる」が最も多い。幸福度とクロス集計をすると、元気高齢者ほどの関連性が見られない。しかし、「付き合いはない」と回答した方の点数は5.69点と低い。
- ・友人・知人と会う頻度 「ほとんどない」が43.2%で前回とほぼ変わらない。幸福度とクロス集計をしたところ、「ほとんどない」と回答した方の平均点は他よりも下がっている。
- ・食事を共にする機会 「毎日ある」の割合が減少し、「ほとんどない」の割合が増加している。
- ・助け合いについて 要認定者には「支援してほしいこと」を伺っている。「雪かき」、「緊急時の手助け」、「災害時の手助け」が高くなっている。前回と大きな変化はない。元気高齢者の方でも、この項目が上位にきている。支援できることとしてほしいことがマッチしている。
- ・在宅医療について 病院や診療所へ通院している人が80.8%から84.6%と若干増え、訪問診療を受けている人が14.8%から10.3%と若干減少している。
- ・認知症について  
認知症に関する相談窓口を知っているかの問いに、「はい」が2割強。「いいえ」が7割強。前回とほぼ同じ。  
認知症になっても安心して暮らすために充実が必要なことに関しては、「入所できる施設」、「認知症の受診・治療ができる病院・診療所」、「専門相談窓口」が高い。
- ・地域包括支援センターについて  
「よく知っている」「ある程度知っている」が約4割、「ほとんど知らない」「全く知らない」が約5割。前回とそれほど変わりがない。力を入れてほしい事業は「高齢者の一般的な相談」が高い。

(質疑応答)

(委員)前回の調査はいつ行った？

(事務局)前回は令和元年に実施。3年前。

(委員)コロナ前？  
(事務局)コロナ前。

(委員)地域包括支援センターは、諏訪市の中にどのくらいの箇所があるか？  
(事務局)市役所の高齢者福祉課内に設置されている。1か所。

(3)高齢者福祉計画素案策定に向けての提言・意見について  
(副委員長)

高齢者福祉計画の策定内容と体系と、高齢者等実態調査を踏まえての、地域高齢者福祉計画に反映すべき課題、高齢者の生活実態や、社会変化の状況、コロナ禍の影響などについて、ご意見をお願いしたい。

(委員)

妻が認知症の疑いがあり、老老介護。今日も「どこ行くの？」と何度も聞かれて、嫌になることがある。地域の皆さんに妻の状態を知らせ、地域の皆さんが見守って声をかけてくれる。非常に地域との関わり合いというのが大事だと思っている。

(委員)

「雪かき」問題について、中学生がボランティアで雪かきを支援していることを聞いた。消防団に依頼することも考えているが、中学生は体力もあり、地域のお年寄りの方とマッチングできると思う。各中学校でボランティア活動をしており、地元の中学生在が介護施設で高齢者と関わることもある。地元の活動に合わせると中学生も福祉活動ができる。

(委員)

1人暮らしをしており、困っていることが沢山ある。諏訪市に引っ越してきたため、地域に知っている人が少ない。

介護予防のクラブを立ち上げ、40名程の参加者と話す情報交換ができる。活発に情報交換ができる場が増え、困った時の相談窓口を市民に周知できると良い。

(委員)

地域共生社会の実現について、「我が事」、「丸ごと」という、言葉は良いが、高齢世帯、独居等老老地域コミュニティになっている。自治体としてどう取り組むのか考えてほしい。

(委員)

民生委員をしている。見守り協力員の存在が大事と感じており、近所にいてくれることがとても心強くありがたい。

災害に関して、高齢者の避難方法、支援のマニュアルが不明瞭。高齢者の情報、助け合い、見守りなど話をしているが、個人情報への壁がある。近所にも知られたくない人がいる。高齢者を連れて一人で避難するのは難しく、助け合いの体系化があれば良い。

(委員)

実態調査を見て、コロナ後、高齢者の閉じこもりと孤立化が進んでいることを痛感。介

護の認定率や、サービス利用率が上がらないことを願う。コロナになり、民生委員の方も思うように動けない。自分の仕事も訪問だが、制限があり、マンパワーに限界を感じる。今後は、ICTや機械をうまく活用していくことができないか。諏訪市の「緊急通報システム」は、24時間動きがないと通報されるものもある。そのようなものをうまく活用できれば、大きな支援となる。

(委員)

外出機会が減少。ある高齢者も、週1回家族とスーパーに行き、買い物をするという目標だったが、コロナ禍で中止していた。体が動かなくなり、毎週行っていた買い物が良い運動になっていた。

サロンでは人と会話をすることで情報共有や運動をし、認知症予防やフレイル予防になっていた。

地域の移動手段の相談が多い。高齢になると病院に行くことも増えるが、移動手段がない。運転免許を返納した後に、移動手段や支援がないから、運転免許の返納に踏み切れない。諏訪市ではタクシー券があるが通院のみ。バスの利用はバス停まで行けないという意見がある。タクシーを少し安くするか、スーパーに行けるバスとかがあると良い。ある地域で買い物支援をしているようだが、良い取組は真似したい。

また、高齢者の年金が世帯の主要な財力であることがある。生活困窮や適切な支援につながらないため、行政へ相談するよう伝えるが、相談に繋がらない。行政はハードルが高いと感じる人は少なくない。顔なじみの人が相談乗ることや、気軽に相談できる場があれば良い。

(委員)

小規模多機能のサービスを提供している中で感じることは、介護者の年齢が高齢化してきていること。80代の方が介護していることもあり、老老介護もますます高齢化している。在宅介護者へのサポートが充実すれば、より長く地域の中で暮らせるため、介護サービスの充実を考えていければ良いと思う。

(委員)

病院や介護施設は需要がある。施設や病院、訪問看護、訪問介護はそれぞれ事業所が運営しているが、独居高齢者をまとめたケア付きマンション等必要ではないか。

ACPIについて、市民対象の研修会が必要。

何が必要とされているが、行政とコミュニケーションを図りながら計画的に進めたい。

(委員)

幸福度が高いのは元気な高齢者が自分の時間を抱けていると思う反面、コロナで外出の機会が奪われている。

今後、認知症の方が増える。初期の認知症の人はまだ自分でできることが沢山ある。デイサービスは行きたくないけど、家にいるだけではADLが落ちる。工夫して訓練すれば、認知症も進行せず暮らせる。また、周囲は介護が必要だと思っても、本人が拒否すると、介護者が余計に時間を取られる。

計画について、前回の計画は具体的に数字で示されていた。可視化し、具体的な数値があると評価しやすい。

(委員)

幸福度が高いことに驚いた。家族・知人以外の相談相手に、残念ながら薬剤師が載っていない。薬局も、相談相手となるよう周知が必要。

人生百年時代の中で、その幸福度を維持しながら一生を全うするために、啓発活動ができるのではないかと。なるべく長い間元気であるように、薬局でも認知症相談ができるような体制をとっていききたい。

(委員)

口腔関係の介護予防事業に参加したい人が8%ぐらい。市と連帯して介護予防事業をしているが、参加する人は20人前後。フレイルという言葉が浸透していない。周知に力を入れたいと思う。

相談相手は医師・歯科医師・看護師で3割ほどだが、看護師が多く、医師や歯科医師は入っていないと感じている。

(追加の意見)

(委員)

友人・知人と会う頻度で「ほとんどない」という回答について、もう少し分析する必要がある。

雪かきの問題は、以前は民生委員が家に行き、朝早くから行うこともあった。中学生はなかなかあてにできない。朝、積もっていれば動けるが、積雪が昼や夕方ということもある。子供達も習い事があったりして、難しいという実感。

## 5 今後の次期計画策定と、当委員会のスケジュールについて説明

(事務局:小口係長)

- ・令和5年8月から10月にかけて、計画の素案を作成。
- ・第2回委員会(11月頃)で作成した案を示し、さらに意見を集約。
- ・第3回委員会(12月頃)で再度検討を行い、素案として確定。
- ・12月から令和6年1月にかけてパブリックコメントを実施。
- ・第4回の最終委員会(2月頃)で最終計画を確定。
- ・3月には計画書の印刷配布。

(事務局:守屋部長)

様々な意見をありがとうございました。アンケートの結果に対する分析がもう少し必要。アンケートに自由記載も確認し、人と人、人と地域とのつながりが減っている中で幸福度が上がっていることについて、もう少し深い分析を行っていききたい。

冒頭にも申し上げたが、短期間で大きな計画を立案する。今後も丁寧に対応していきたい。

## 6 その他

(事務局)次回委員会は11月頃予定

## 7 閉会